

金大附属病院が4月から、公立宇出津総合病院(能登町)に初めて薬剤師を出向させている。宇出津病院では、今後2年で薬剤師4人のうち3人が定年を迎えるが、出店が相次ぐドラッグストアに薬剤師が流れて新規採用の見通しが立たず、金大に支援を求めた。金大では、奥能登の公立病院が人材確保に苦慮していることから、出向に合わせ、地域医療を担う若手が働きやすい職場づくりにも取り組む方針だ。

金大附属病院から派遣された薬剤師の板井さん(右から2人目)と能登町の公立宇出津総合病院



## ドラッグストア増加 奥能登で人材難深刻

ふるさとで奮闘  
着任したのは宇出津出身の板井進悟さん(45)。2018年の志賀町立富来病院に続いて2度目の出向となり、今回は半年間を予定している。宇出津病院では非常勤で金大から医師を受け入れた実績はあるが、薬剤師は初となる。石川県病院薬剤師会会長を務

める金大附属病院の崔吉道(ついで)薬部部長によると、能登の公立病院では薬剤師の新規募集を掛けても応募がほとんどなく、定年後も再任用を繰り返してやりくりするところが複数あるという。その背景には、上位の資格を取得しやすい大規模病院が少ないことに加え、ドラッグストアの開設が増えていることがある。薬剤師の初任給は、

# 宇出津病院に初出向

## 薬剤師確保 金大が「特効薬」

公立病院では自治体の条例に基づき20万〜21万円程度なのに対し、ドラッグストアはレジや店舗責任者を兼ねるため約30万円と高い水準にある。経済産業省がまとめた商業動態統計によると、昨年12月時点の石川県内ドラッグストア店舗数は251店で、前年同月比で全国トップの14・1%増となった。薬剤師は売り手市場が続ぎ、就職先に条件が良い民間を選ぶケースが増えているという。

「魅力的な職場を」

金大では能登の公立病院の薬剤師確保には、魅力ややりがいを感じられる環境が必要とみており、板井さんは「故郷の人が安心して暮らせるようにとの思いから志願したが、単に人材不足を補つのでなく、後進が働きたくなる魅力的な職場をつくる」と意欲を示す。

板井さんは、薬に関する最新の知見を周知することや、多くの医療スタッフと関わる薬剤師が、医師との仲介役となつて働きやすい医療現場にすることにもしっかり取り組む考えだ。

崔部長は「薬剤師が少ない病院は1人辞めると残された人の負担が大きくなり、次々と辞めていくことが懸念される。若い人材が能登の病院へ希望して出向く仕組みをつくりたい」と板井さんの活躍を期待した。